

2017年3月30日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 真(電話 055-954-3666)

東京大学との共同研究契約期間延長のお知らせ

当社は、国立大学法人東京大学医学部附属病院との間で、当社が創出し開発中の抗癌剤候補化合物CBP501の膵臓癌発症モデルマウスによる薬効試験について共同研究契約(2016年3月1日から2017年3月31日まで)を締結し共同研究を実施していましたが、このたびこの共同研究期間を2年間延長する旨の合意が成立し、2017年4月1日を効力発生日とする共同研究変更契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

2016年2月9日公表内容

【研究目的】 CBP501単独投与および他の抗癌剤との併用投与による膵臓癌への薬効を、膵臓癌発症モデルマウスを用いて確認する。

当社が開発中の抗癌剤候補物質CBP501は、癌細胞特異的にプラチナ系抗癌剤の作用を増強することに加え、最近になって、癌微小環境に作用することが判明^{*1}しました。

このことから、従来は難治性癌で最新の免疫チェックポイント抗体も無効とされている膵臓癌でも、CBP501の癌微小環境への作用との相加もしくは相乗効果によって、CBP501単独もしくは他の抗癌剤との併用投与によって薬効が発揮されることが期待されます。

本共同研究では、東京大学医学部附属病院伊地知秀明講師が作製したヒト膵臓癌に最も近い膵臓癌発症モデルマウス^{*2}を当社実験動物施設に導入し、CBP501単独およびその他の抗癌剤(免疫チェックポイント阻害剤を含む)との併用による薬効を確認します。薬効が見られた場合には、組織染色などの手法を用いて、当該薬効が発揮されるメカニズムを詳細に解析します。

本共同研究の期間は、2016年3月1日から2017年3月31日までです。

上記の研究にあたって、まず少数のサンプルで予備薬効試験進めてまいりました。その結果を踏まえ、サンプルを増やした本実験を実施することとなり、十分な期間を確保するために共同研究期間を延長するものです。

本実験で薬効が確認できた場合には、組織染色などの手法を用いて当該薬効のメカニズムを詳細に解析します。

本共同研究の期間は「2016年3月1日から2019年3月31日まで」に変更されました。

なお、本件による当期業績への影響はありません。

以上

【ご参考】

※1・・・ 2015年10月27日付当社プレスリリース「CBP501新発見に関する学会発表について」参照

※2・・・ 癌の動物実験は一般に、ヌードマウスやSCIDマウスにヒト癌細胞を移植したヒト癌発症モデルマウスを用いますが、これらはヒト癌細胞を植え付け増殖させるために免疫系が不全なマウスです。

そのため、免疫チェックポイント阻害剤に関連する動物実験には使用できません。

本共同研究において東京大学医学部附属病院伊地知秀明講師から導入する膵臓癌発症モデルマウスは、ヒト膵臓癌に最も近い膵臓癌をマウスに発症させた病態モデル動物であり、免疫不全がないことから、今回の研究目的に最も適したモデル動物です。

当社の抗癌剤候補化合物CBP501は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業の結果得られた「堅牢な合成方法」を活用して製造しています。